

JEC関連 掲載記事

2024.6~2025.5

北日本新聞 2024.6.11

深層水塩ラーメンいかが



滑川 滑川高校商業科の生徒が考案した滑川海洋深層水塩ラーメンの販売促進イベントが9日、北陸自動車道有磯海サービスエリア（SA）・上り線（滑川市栗山）であった。ミネラル分が豊富で、白エビ風味のスープとともにした麺が特徴で、3年生5人が来店客に魅力をPRした。

塩ラーメンは地域資源の活用を目指し、2020年度に同校商業科の当時の2年生が考

塩ラーメンの試食品を配り、魅力をPRする生徒

案。滑川沖の海洋深層水から作った塩をスープや麺に使った商品で、21年2月から同SAの土産店やフードコートで販売してきた。同市のほたるいかミュージアムなどにも並べ、これまで4万6000食を売り上げている。

イベントは今後の販売実習に向けた接客の練習と、商品の知名度向上を目指して行い、約30食分が売れた。伊東大樹さん（17）は「初めての販売実習で分からぬことも多かったが、商品を買ってくれる人がいてうれしかった」と話した。

滑川高校
有磯海SAでPR

北日本新聞 2024年6月12日(水)掲載

北陸発信拠点の
ユニホーム決定

ゴールドウイン製採用

北陸新幹線の敦賀延伸を踏まえ、北陸3県が大阪府内に整備する「富山・石川・福井情報発信拠点」（OKURIKU+）（ホクリクプラス）で、スタッフが着用するユニホーム（写真）と名札が決まった。県が10日発表した。

ホクリクプラスは2023年6月30日で、スタッフが着用するユニホーム（写真）と名札が決まった。県が10日発表した。県が10

5年開催の大坂・関西万博や北陸新幹線の大坂延伸を見据え、7月31日、大阪駅近くの複合ビル内にオープンする。3県の特産、工芸品を扱う物販スペースのか、地酒やつまみを楽しめ、3県共同のイベントスペースなどを設ける。

ユニホームはゴールドウイン（本店・小矢部市）が展開するブランドのシャツが紹介。スラックスを採用。スラックスは黒色、シャツは紺色で、背中側に「ホクリクプラス」のロゴを刺しゅうする。名札には各県産材の端材を活用する。

うまいもん
ひだり

健康的な伝統食 手軽に

定食で脇役に甘んじがちな料理が、主人公へと躍り出た。メインの揚げ物の中身は、まさかの漬物。さっぱりとした酸味のある高山市高根町日和田地区の伝統発酵食品「す

な」に、こってりと甘い牛すじを加え、パリッとした食感の春巻きの皮で包んだ。

「すな」は湯がいた赤カブを乳酸発酵させて作る。味は豊富なうまみ

成分によるもので、塩は一切使わない。血圧を下げる効果が期待できるアミノ酸「ギャバ」も多く含み、近年は健康食材としても注目を集めている。

春巻きは、そんな地域の伝統食材をもっと手軽に食べられるようにと考えていた山口雅治料理長（60）が発案。半日以上かけて煮た牛すじに「すな」を足してさらに煮込み、春雨とニンジン、シイタケを加える。

同じく牛すじと「すな」を具にした「おやき」も付く定食は、2年ほど前から提供。メインは、牛肉のしぐれ煮と「すな」を混ぜて包む揚げ餃子などを定期的に入れ替える。山口料理長は「乳酸菌が入っているので腸の状態も整う。食べに足を運んでもらえば」。

◇

塩沢温泉 七峰館▽すなの春巻き定食1200円（ランチのみで、前日までに事前予約が必要）▽高山市高根町上ヶ洞290▽午前11時～午後2時。水曜日定休▽0577（59）2328（平田志苑）

高根の七峰館「すなの春巻き定食」



すなの春巻き定食
春巻き：高山市高根町で

「あゝ野麦峠」再上映

映画のワンシーンの写真や台本などを貰って資料が並ぶ会場。高根町野野麦、野麦醸造。助け小屋。

卷之三

うなずく味 温泉ウナギ

24日の「土用の丑」を前にウナギが
地で売り出される中、黒部市内では、
奈月温泉の温泉水を使って今年商品
化された「湯遊うなぎ」のかば焼きが
供されている。

31日開業 ホクリクプラス
来月氷見応援フェア

大阪駅西口

非誠勿擾

新編

卷之三

延祐

開港は、

1

11

しれ来て
しきて

高山・高根町では台本や色紙展示

が明るムラムラ、

かに。今年、堤が委託され、上映が実現



りたい」と思いを語る。
問い合わせはシネックス、
電話058(264)715
(市原萌子)

3月31日㈯ 知事は会見で、地で行われるオープニングイベントに出席することを認めた。北陸新幹線開業で人の往来やビジネスの面で東京一極集中が加速しているとし、関西とのつながりを強めていきたいと話した。

10 of 10

A row of stylized buildings and a street lamp.

特産白ネギ使いバーガー



KOKOくろべで販売へ

黒部市の桜井高校の生徒が、市の特産品・白ネギを使ったバーガーを考案した。本年度中に、同市の道の駅KOKOくろべで販売する。7日は同校でメニュー選びに向けた審査会があり、関係者が味を確かめた。

(吉崎美喜)

桜井高生開発

味・見た目工夫重ね



黒部市や、道の駅内で弁当や加工品を販売する会社黒部はるか

(小谷武嗣社長)などが、白ネギの魅力を広めようとバーガーの販売を企画。桜井高校にメニュー開発を依頼し、生活環境科食物コースの3年生8人が7月から試作に取り組んだ。生徒や小谷社長から意見を聞き、改良を重ねた。

完成したバーガーは、ネギの肉巻きフライやネギ入りハンバーグ、磯辺揚げなどを挟んだ4種類。白ネギをたっぷりと使い、1個につき1本使用したメニューもある。

審査会では生徒がバーガーの作り方や特徴を説明した。関係者が食べて、味や見た目、ネギのアピールの強さなどの観点で点数を付けた。小谷社長は「どれも工夫されていておいしい」と講評した。

今後、関係者が点数を踏まえて販売するバーガーを決める。販売時には生徒も店頭に立つ予定。沓掛晴和さんは「みんなで作ってきたバーガーが大人にも評価されてうれしい。販売がだんだんと現実的になってきて、楽しみ」と話した。

石田三日市線バス
KOKOくろべ停車
公共交通推進協議会

黒部 略推進協議会は7日、市役所で会議を開き、2025年度からの路線バスのルート一部変更を了承した。石田三日市線は、新たに道の駅KOKOくろべや市民交流センター・あおやに停留所を設ける。24年度内に開く次回の会議で正式に決める。

このほか、昨年から実証運行している宇奈月町の内山・音沢両地区と宇奈月サービスセンターを結ぶバスは、一定の需要があることから「愛本コミュニティタクシー」の路線に組み込んで本格運行する。タクシー車両で月、木曜に走らせる。

路線バスの新幹線市街地線は、ショッピングセンター・メルシーにも止まるようになる。



県と関空便計画新興会社

地方創生や観光で協定

県は13日、2026年春に富山空港と関西国際空港を結ぶ路開設を目指す航空会社「シェイキヤスエアウェイズ（東京）」と、地域活性化や観光振興に関する連

携協定を結んだ。関西圏での富山の魅力発信や富山・関空便就航に向けた商知、国内外からの観光客に連携して取り組む

同社は新興企業を集中



協定書を手にする（右から）斎田知事、白根、梅本の両代表取締役二県庁

支援する県のプログラム「T-Startup（スタートアップ）」に選ばれていることから、協力して起業の機運醸成にも取り組む。県庁で締結式があり、斎田八朗知事と同社の白根清司・梅本祐紀の両代表取締役が協定書に署名した。知事は「関係人口や交流人口が増えることを期待している。地方創生にも一緒に取り組みたい」と述べた。

関空と、富山空港や米子空港を結ぶ空路開設を目指す同社によると、資金調達の目標額50億円のうち調達したのは6・5億円にとどまっている。うち3億円は県内12企業から得たとい

う。機材調達のめどは立つ

ており、人材確保や、目標

を達成している2年1・3月の

国・事業認可に向け、準備

を進めている。富山・関空

便は定期76席の小型機を使い、1日3往復する。チケットは1万円前後に設定する計画で、搭乗率60%以上で黒字が見込めるという。白根、梅本両代表取締役は「協定を結ぶことができ、富山は訪日客からも魅力的な土地で、期待に応えられるよう前へ進める」

白根、梅本両代表取締役は「協定を結ぶことができ、富山は訪日客からも魅力的な土地で、期待に応えられるよう前へ進める」

斎田知事は「新幹線の一日も早い全線開業を望むスタッフは変わらないが、利便性が高く手頃な価格の交通手段が増えるのは良いこと」との考えを示した。



商議所販路拡大ヘツアー

中国の工芸ファン高岡に

中国の工芸品愛好家向けのモニターツアーが2、3の両日、高岡市内で行われ、参加者が高岡銅器や漆器の工房見学や市内観光を通じて高岡の歴史文化の魅力に触れた。（花田千恵）

工房見学「職人の精神に感心」

伝統工芸品の国内市場が縮小する中、需要がある中華圏の富裕層への販路拡大を支援しようと、高岡商工会議所が企画した。観光局の補助事業に採択され、商議所から委託を受けたエック経営コンサルタント富山市が取り組む。ツアーには50、60代の男女4人が参加。8名に訪れた高岡市内では高岡市地図本町では高岡漆器の「青霞塗」の技芸が施された贈物や器を見て回り、4代目の武藏川剛職さんとのデザインの意図や用途を熱心に尋ねた。作品を購入する姿もあった。

参加者は、職人の藝術に対する精神に感心した。作品を素晴らしいものばかり」と語った。

2日は高岡銅器漆器や金属加工の工房を参観し、職人を交説する。高岡漆器の「青霞塗」を美濃の旅館で見学するツアーを実施しており、参加者の声を参考にツアー内容を充実させ、2025年度に降低販売する。

などと語った。

26年春の就航が実現すれば、北陸新幹線敦賀・新大阪の開業よりも早くなる。

斎田知事は「新幹線の一日も早い全線開業を望むスタッフは変わらないが、利便性が高く手頃な価格の交通手段が増えるのは良いこと」との考えを示した。

「氷見のたまもの」人気



氷見市の特産品や体験商品を集めたギフト「氷見のたまもの」を販売するフェア=富山駅

水見市の特産品や体験商品を集めたギフト「水見のたまもの」を販売するフェアが13日、富山駅南北自由通路で始まり、大勢の人たちが水見ならではの品物を買いました。14日まで。

富山もよう「水見のたまもの」プロジェクトと題し、能登半島地震で大きな被害を受けた水見の魅力発信や事業者の商品の販路拡大を目指す。

ギフトは同市の物産・観光18事業者と北日本新聞社が開発。水見いわしあヒー

ショなど4~7品を詰め合わせたギフトボックス2種類と、水見での体験が楽しめるギフトカードを用意した。いずれも「富山もよう」が描かれた箱に入れて販売する。鶴光で県内を訪れた東京都町田市の中村透さん(26)は「魅力的な商品ばかりでおいしそう」と声を弾ませた。

来年1月18~19日に大阪府で、同25~26日にはイオンモール高岡の地場産業品店「T・OCUL(ティ・オーハル)」で販売する。

富山駅でフェア 特産品魅力紹介



震撼した「大根役煮カレー」をP/Bする生徒

開発には山形県のイタリア料理店でオーナーシェフを務める奥田政行さんが協力。5月に試食会を開き、一緒に調理をしながら味を調整した。

新川だいこんカレー！完成 新川高生開発 「食感楽しんで

新川高生開發

食感楽しんで

完成したカレーはさうぞらのルーが特徴でシナモン、チンピ、八角を使用。地元食材をP.Rしようとして、1枚角に切って乾燥させた新川だいこんを加えた。フライパンで食べやすい味に仕上げた。

たマッシュをデザインした。
部長の西島さん(2年)は「素晴らしいものができ
た。新川さんが食感を
楽しみながら味わってほしい」と話した。
価格は880円。あいの
風どりやま鯛魚津駅構内の
「ミラマルシェ」や餅店源
七、学校や各種イベント
でも販売する。

富山のすして食の魅力を伝える関係者
II 大阪市内（県提供）



富山のすし 大阪でPR 県の観光物産展始まる

県の観光物産展始まる

県の観光物産展は8日、大阪市の阪急うめだ本店で始まつた。県内のすし職人が握つたブリ、ヘニツワイガニ、ノドグロの3種盛り合わせやまずしが並び、来店者に富山の食の魅力をアピールした。富山運河環水公園や黒部峡谷を紹介する写真パネルが掲示された。大阪駅近くの北陸三県情報発信拠点「HOKU RIKU+（ホクリクプラス）」の来場も呼び掛けた。物産展は14日まで。

2025年1月26日(日)北日本新聞

「氷見のたまもの」ずらり 高岡でフェア

特産・体験商品を販売

それが氷見の魅力や特色に触れ、商品を買いためた。26日まで、能登半島地震からの復興に向ひ、氷見市の物産・観光18事業者と北日本新聞社が、氷見産のサバを使った「さば煮煮缶」など4、7品を詰め合わせた種類のギフトボックスなど、市内での体験を乗

フェアでは水見市内の19事業所が出品し、担当者が商品の特徴などを紹介した。豪族で訪れた砺波市の大橋家さん(55)は「この機会に水見の食材を楽しみたい」と話した。

西館の地場薬業品店「T・O・C U-L (ティ・オ・クル)」でも販売している。フェアは午前10時から午後5時まで。



ギフト「氷見のたまもの」や氷見の特産品が並びにぎわうフェア—イオンモール高岡

2025年1月30日(木)北日本新聞

開業半年 来店100万人

大阪のホクリクプラス

県万博生かし誘客を加速



開業初日に多くの来場者でにぎわう「HOKURIKU+」
=2024年7月31日、大阪市

2025年2月5日(水)北日本新聞

グリーンパーク吉峰温泉部門
ジェックに事業・株式譲渡



株式会社たてやまが指定管理者の「ゆ~ランド」(左)と「よしみねハイツ」(右)=立山町

立山町の第三セクターで、グリーンパーク吉峰の温泉部門を担っている「株式会社たてやま」は4日、臨時株主総会を開き、ジック経営コンサルタンツ（富山市湊入船町）に、事業と全株式を譲渡することに

ウハウで再生へ
を決めた。設備の大規模修
繕に伴い、長期の休業が必要
となるなど厳しい経営が続
くことから、民間のウハウ
ウを活用して再生を図る。

「たてやま」はグリーンバ
ーク吉峰の中核施設となっ
ている「うらんど」「よし

町などによると、同
全5千株のうち、町が
50株、残りは企業や
が保有している。譲渡
は1株1万円とする。
予定日は3月初旬で、
渡し予定日は4月1日

2025年2月16日(日)北日本新聞

復興に水見町観光プロモーションが15日、大阪駅西口のKITTE大阪で行われた。写真、16日まで。能登半島地震からの復興に向け、「がんばろう北陸」企画。観光宣伝や特産物の販売などを通じて復興需要の取り込みを目指した。

氷見の観光 大阪でPR

春の観光シーズンに向け
市内観光名所のパネル展示
や特産品の販売などを行

2025年3月9日(日)岐阜新聞

4言語操り おもてなし

カンボジア出身の塩沢温泉七峰館従業員
オツ・スレイメアスさん(23)=高山市=

高山市の中心市街地から車で約1時間の場所にある同市高根町の温泉宿・塩沢温泉七峰館で勤務する。優れた語学力で、外国人宿泊客の接客などで活躍し、七峰館を支える。

カンボジア出身。姉の影響で日本語を学ぶことに興味を持ち、王立アーノンベン大学の外国語学部で日本語を学んだ。同館を運営する「ジェック経営コンサルタント」(高山市)がカンボジアにも事業を展開しており、現地法人の店でアルバイトしていた縁で来日し、同館で働くことになった。

母国語であるタメール語のほか、日本語、英語、中国語を話すことができる。七峰館では料理を並べたり、部屋を清掃したり、事務作業で機械物をデータ入力したりするなど、幅広く業務に当たる。

高根町について「山に囲まれているけれど安全な町。周りの人が優しくしてくれるの安心できる」と頬をほほえさせて。「日本語での接客は敬語が難しく、緊張することもあるが、家族を思って一生懸命頑張ることができる」と思いをはせる。



Sunday 岐阜人

2025年3月17日(月)北日本新聞

水消火器で放水する子どもたち
黒部消防署や黒部警察

消防・警察・運輸
はたらく車集合
消火器体験も

署、佐川急便、KOKOくろべが協力して開催した。駐車場に救助工作車やパトカー、白バイ、大型トラックなどが並び、親子連れらが運転席に乗ったり写真を撮ったりした。消火器体験コーナーでは、子どもたちが消防や警察などの仕事を親じんだ。

黒部 フェスター」が16日、黒部市の道の駅KOKOくろべで開かれ、子どもたちが消防や警察などの仕事を親じんだ。

2025年3月18日(火)北日本新聞

2025年3月18日(火)北日本新聞



20日PRイベント

20日、黒部市の道の駅KOKOくろべで開かれる。若い世代に細工かまぼこの技術や魅力を広めようと、県蒲鉾水産加工業協同組合青年部「蒲友会」が企画。昨年3月に富山駅で開き、今年は親子連れが多く訪れる道の駅KOKOくろべに会場を変えて開催することにした。イベントでは県内の製造業者15社がパネル展示でそれぞれの鰯かまぼこの実物を紹介する。この他、力士や魚津市イメージキャラクター「ミクタン」など、蒲友会の広野隆一会長(40)は「細工かまぼこは昔から根付いている富山の文化。多くの人に知つてもらいたい」と話している。

イベントは午前9時~午後3時。

細工かまぼこ知って

飛騨高山まちの体験交流館

祭 「ゆはら染工」コーナー



豊鶴楽の祭り衣装を着てアピールする柚原さん=高山市上一之町で

道の駅KOKOくろべ（黒部市堀切）の2024年4月～25年2月の売上高は4億8088万円となり、前年同時期を約4千万円上回った。施設の認知度向上が影響したという。24日の市議会観光・都市活性化振興特別委員会で市が報告した。

道の駅KOKOくろべ
(黒部市堀切)の2024年4月～25年2月の売上高は4億8088万円となり、前年同時期を約4千万円上回った。施設の認知度向上が影響したといふ。24日の市議会観光・都市活性化振興特別委員会で市が報告した。

連れが多い中、土産品や農林水産物の売り上げが伸びており、市は買い物を目的に訪れる人が増えたとみている。

祭り衣装、染め物触れて

KOKOくろべは22年4月にオープンした。24年度の1日当たり売上高は、前年度より13万円多い144万円となっている。遊覧を目的で遊びに来る家族

QRコードで
「CAMPFIRE」
をクラウドファンディング
サイトで募つて
いる。同社は「0577(3)
21113(村瀬美空)

トロッコ来月20日から
黒部峡谷鉄道 短距離でスター
途中の猫又までの区
は24日、今年のトロッコ電
車の営業運転スケジュール
を発表した。積雪が多いた
め、例年よりも短い運行距
離でスタート。4月20日に
宇奈月→柳橋間の2・1回
で始め5月3日に笛平(7
+)まで延ばし、同10日に
笛又(11・8+)まで延長
する。
能登半島地震で被災した
橋の修復などに時間を要し
ているため、昨年と同様に
たり写真を撮つたり

ト よつにする。
大人料金は、いずれも宇奈月からの往復で柳橋が700円、笛平が1600円、猫又が2880円。営業運転は11月30日まで。

—2025年3月28日(金)北日本新聞

○：富山大
芸術文化学部
の学生が27
日、富山市の
山保全・サービスセンター
で、制作した商品パッケージを発表した＝写真。

高山市上二町の飛騨高山まちの体験交流館で22日、「飛騨着」を手がけるのは「うつわ」(本町)の体験コーナーが「プレオ」ブンした。祭り衣装の試着や染め物体験ができ、4月下旬に本格開業する。試着できるのは、高山祭で鉦を打ち鳴らす「闘鶴樂」の衣装をモチーフに鮮やかな鳳凰や竜を描いたもの。今までに事前予約が必要。5代目社長の赤穂雅穂さんは、「普段祭りに参加できぬ地元の人も衣装をはる」2種類。本格開業後は、屋台組の人たちの祭り衣装も増やし、身につけたまま歩きができるようにする。街歩き体験では、鳳凰や竜といった絵柄のトートバッグ(収納袋、横30センチ)や、全長80センチの「ぼのぼに」色づけできる。体験の1週間前までに事前予約が必要。5代目社長の赤穂雅穂さんは、「普段祭りに参加できぬ地元の人も衣装をはる」

黒部峡谷鉄道（黒部市）は24日、今年のトロッコ電車の営業運転スケジュールを発表した。積雪が多いため、例年よりも短い運行距離でスタート。4月20日に宇奈月・柳橋間の2・1往復で始め、5月3日に笛平（7往復）まで延長し、同10日に猫又（11・8往復）まで延長する。

能登半島地震で被災した橋の修復などに時間を要しているため、昨年と同様に

途中の猫又までの区間運行となる。例年は宇奈月—笛平間で営業運転を始めしており、笛平より手前の柳橋で止まるのは初めて。柳橋は工事閑係者用の駅で、乗客を降ろさずに折り返す。笛平、猫又の両駅では乗客が降りて20分ほど休憩をする。猫又では昨年と同様駅周辺に展望台やフォトスポットを設け、景色を眺めたり写真を撮ったりできる

大入料金は、いずれも宇奈月からの往復で柳橋が700円、笛平が1,660円、猫又が2,820円。當業運転は11月30日まで。



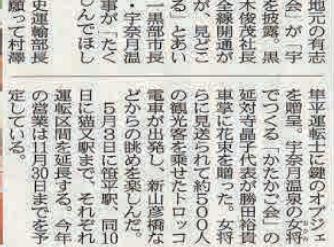
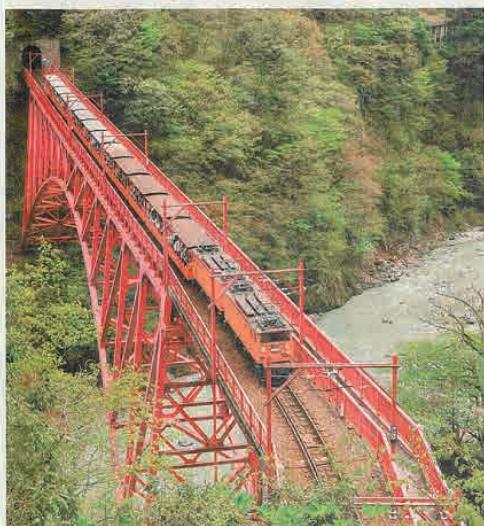
り線(滑川市)で販売中のお菓子を題材に、箱のデザインとPR動画を考案した。

○…発表会では、富山城やチユーリップなど地元の名物をイラストにしたパッケージを紹介。夏からの販売を予定し、店頭に並べば売り上げも“加速”しそう。



2025年4月22日(火)北日本新聞

峡谷美を満喫



モニーがあり、元地元の有志でつる山の会が「宇奈月温泉小唄」を披露。黒部峡谷鉄道の始末俊作社長が、櫻平までの全線開通ができます。苦しいが、見どころはたくさんある)とあります。(武興義)黒部市長と岸川龍夫代表理事が、たくさんの人々に楽しんでほしと述べた。

同社の沖村英史運輸部長が、安全運行を願つて村澤

宗月 に鍵を贈られた代表団がたを乗せて乗せし、めをめに鍵まで延長月30

2025年5月2日(金)中日新聞

高岡市高根町と長野県本市を結ぶ「野馬岬」の開き式が1日、同町の観光施設「お助け小屋」で、り、高山・松本市の関係者約30人が今季の安全を願した。

映画「あゝ野馬岬」に描かれた標高1,672mが、昨年は、明治から昭和初期に飛騨から信州の製糸業者で、出稼ぎに行く少女たちがえた難所で、近年はハイキングコースとして整備さ

A man in a patterned jacket stands in front of a traditional Japanese building, possibly a shrine, with snow-covered trees in the background.

は、める 年の たこ など (富 エツ) 開け 小けい 「地力も 近で

山崎と三ツツ木川の流域に民家が点在する。

い略語の解説を示す。また、各項目の実績を示す。

野麦峠山開き安全を祈願

季通行止めが例年より長
く、4月25日に開通した。



2025年4月5日(土)日本農業新聞



板屋さん(岐阜)大臣賞 本紙読者の写真コンテスト

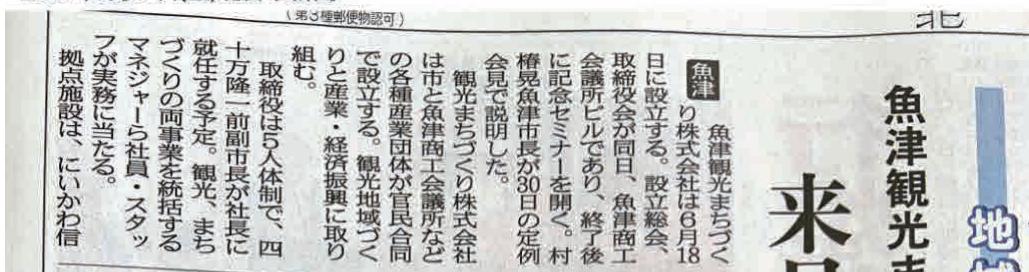
日本農業新聞は4日、第50回読者の写真コンテストの年次大賞を発表。『私のまごと』(佐々木一さん、高知県高岡郡)が最高位の農水大臣賞に輝いた。農水大臣賞は、農業の発展に貢献した農業者を表彰する賞だ。田畠の間で、農業機械の修理作業をする農家の姿が、農業の現状をよく表現していると評された。

2025年5月25日(日)北日本新聞



アクセサリー・小物
手作りの1000点並ぶ

2025年5月31日(土)北日本新聞



用金庫魚津駅前支店（同
祝迦堂一丁目）の3階フ
アを賃借する。市は2日間
会の市議会6月定例会に
程する2025年度一般会
計補正予算案に、賃料と
設整備の助成費計132万
円を計上する。

6月補正予算案は1億
2556万円（累計2177万

来月18日設立 洋観光まちづくり会社

6月補正で支援

